

# 法政就業力通信

～今月のさんぽ道～

法政大学

就業力育成 3D 教育プロジェクト

<http://3dep.hosei.ac.jp/>

就業力育成3D教育プロジェクト

## 「ビデオ教材研究会」を立ち上げました

特任教員 鈴木 美伸 (すずき よしのぶ)



### 略歴

84年成城大学法学部卒。

日米ハイテク企業での営業・人事を経て人事コンサルタントとして独立。キャリアカウンセラー資格取得後は多くの大学でキャリア論の講師を務める。

e-mail:

[ysuzuki@stage41.com](mailto:ysuzuki@stage41.com)

[yoshinobu.suzuki.88@hosei.ac.jp](mailto:yoshinobu.suzuki.88@hosei.ac.jp)

ip

研究室は一口坂校舎(8F)804

ビデオ教材の新作2本(産業機械編、商品企画編)が完成し、これで8本のシリーズとなりました。かねてよりお伝えの通り、本年度からはビデオ教材の使い方(授業の進め方)についてもノウハウの蓄積を広く社会に発信して参ります。その中心的な活動として、以下の通り「ビデオ教材研究会」を立ち上げました。

### ▼研究会概要

- ・対象者 ビデオ教材を授業に用いる大学教職員、企業人事担当者、公的機関のキャリア支援担当者等
- ・開催日 毎月第一金曜日の夕方、および夏期・春期休み中(市ヶ谷キャンパス内教室で実施)
- ・主な活動 ビデオ教材の視聴&討論、授業での実践例の紹介、模擬授業、  
メーリングリストでの意見交換、教材テキストの作成等

### ▼第1回研究会(5月8日)の報告

初回の研究会は大学教職員を対象に、15名の参加者でした。既にビデオ教材をお使いの方も、今回初めて参加の方も居られますが、積極的にご発言を戴き、主に3分野(ビデオ教材の内容、授業での進め方、その他の活用方)について新たなノウハウや知見を得られることができました。その中でも、特に大きな学び(課題と対策)となったのは以下の通りです。

1. 単一の1回だけでの運用は効率がよくない  
⇒グループ・ディスカッション等の共通スキルは最初に体験させておく。  
他の授業で個別に実施しておくことと学習効果は更に上がる。
2. 連続した構成を考える必要がある  
⇒低学年から高学年へ、段階的スキルアップの体系をもつ。  
ビデオ教材の学年別使い分け。
3. 授業を進める上での個別ノウハウの蓄積が必要  
⇒標準的なスキルをまとめた教師用テキストがあると良い。  
シリーズが揃えばインストラクター養成も可能になる。

私たちのプロジェクトも、いよいよ試行錯誤段階から普及支援段階に入って参りました。法政から日本全国に発信できるように鋭意努力して参ります。ご関心のある方はどうぞ研究会におこし下さいませ。

**\* 次回(第2回)は、6月5日(金)15:30-17:20の予定です。**



## 就職活動と学業の両立をどうすすめるか

教授 藤村 博之 (ふじむら ひろゆき プロジェクトリーダー)

4年生は、就職活動の真っ最中である。会社説明会という名の採用面接を行っている企業も多い▼今年の就職・採用活動は、学業への影響を配慮して、昨年度よりも3~4カ月遅くなった。この措置によって学業への影響がなくなったかという決してそうではない。昨年と同じように、会社説明会を理由に講義やゼミを休む4年生はたくさんいるし、「内々定が出た」という友人の言葉に浮き足立つ学生も多い▼企業には企業の事情があるだろうが、やはり「学業への配慮」は必要だ。そこで、学生にすすめているのは、日程調整をお願いすることである▼面接などが設定された日時と講義やゼミが重なったとき「その日は講義・ゼミがあるので、調整していただけませんか」とたずねるのである。役員面接などは難しい場合があるが、それ以外は調整可能だと採用担当者は言っている。もっと言えば、調整してくれない企業には行かないという気概を学生には持ってほしい。

略歴 84年名古屋大学大学院卒。  
京都大学博士(経済学)。84~89年京都大学経済研究所助手、90~97年滋賀大学経済学部助教授・教授。97年~03年法政大学経営学部教授、04年~IM研究科教授。



## 質問力をつけよう！

特任教員 有田 五郎 (ありた ごろう)

「面接の最後にどうい質問を出来るかが勝負なんです」と豪語して就職活動に取り組んだ学生がいた。

そして見事に複数の会社から内定を取り付けた。彼は質問力をアピールして成功した。そして、質問力とは相手と自分をしっかり研究・分析・理解してこそ表現出来るものであることを知っていたわけだ。

今年の新生から、この逆の傾向を感じて心配している。友人・仲間と違う行動を避けて、皆と一緒にという無難で安心出来るものを選ぶ姿勢を感じる。質問力は相手と向き合って、相手の考え方を斟酌してこそ高めることができる。自分なりの考えを加えて質問をぶつける気概を養ってほしい。

略歴 70年慶応義塾大学経済学部卒。  
70~06年伊藤忠商事㈱勤務、06~11年帝京大学と法政大学職員。  
11年~法政大学教員



## 理系キャンパスから…「学生も私もまじめに時間を使っています」

小金井事務部学務課長 細田 泰博 (ほそだ やすひろ)

この4月から理系の学部がある(しかない)小金井キャンパスに来ています。施設や備品の一つをとっても「これどう使うんだろう?」と思う物が多く、基礎から学ばないと道具を使うこともできない、やはり理系は「積み上げ教育」なんだなあ(?)と感じています。

さて、理系の学生の特徴というか意外に感じたことなのですが、サークル活動に参加したり何かの実行委員になっている学生が結構多い。それも皆、熱心です。私が顧問のサークル(左記参照)も実はこのキャンパスの学生が多く、「授業や実験も多くて大変なのに、よく入る気になるな」と思っていました、それを可能にしているのは「忙しい人だからこそ時間が有る」という原理(?)なのではないかと思えます。理系は授業が詰まっているから生活が規則正しい。だから自分の持つ時間も読めるし、やりくりも上手になる。逆に時間の余裕がある者は「1つだけじゃなくいろいろなことに挑戦したい」と目移りがちですが、得てして「何やってたのかな、私」となることが多い。時間は自分しか使えないもの、だからこそ例え辛いことでも使った者勝ち、なんですね。

法政大学社会学部社会学科卒

学務部教育支援課、学部事務課を経て

小金井事務部学務課長

本学応援団総監督

### ◆ Lステゼミでプロジェクト教員が就業力を説く！

プロジェクト教員が本学学習ステーション内プログラム「Lステゼミ」(お昼休みの自由参加型ゼミ)にて、就業力をテーマとした講義を行います。

- ・藤村教授:「大学の講義は就業力を高める! ~就職に役立つ勉強法~」…大学で培われる就業力、企業が学生に求める能力等について詳説。
- ・鈴木講師:「ロジカルプレゼンテーション ~採用面接での論理展開法~」…面接ビデオを見ながら採用担当者からの質問を分析、ポイントを解説。
- ・有田講師:「就業力UPさせる文章作成講座」…履歴書・エントリーシートの書き方のポイントを採用担当者目線で丁寧に説明します。

◆ 編集後記 :就職活動のスケジュールが変わり、今年の就活戦線は企業も学生も大混乱という話を聞きました。4月に内々定を出してしまった企業もある一方、やっとりクルートスーツを買いましたという学生も少なくないらしい。スケジュール感が例年と違うので学生、企業双方ともいつ何をやっていいか戸惑っているようです。人は予測できないことに「不安」を感じるのは当然ですが、一方、社会人になると「予測できない事態が起きてても対応できる力を磨け!」と言われることも。ということで採用担当の方々も自ら「混乱せずに対応」してほしいです。 <事務局平山>

法政大学 就業力育成 3D教育プロジェクト (事務局:学務部教育支援課)

〒102-8160 東京都千代田区富士見 2-17-1

TEL:03-3264-9520 WEB:http://3dep.hosei.ac.jp/

就業力育成3D教育プロジェクト